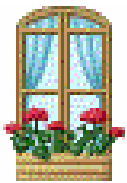


# 島根の地域医療

第10号 島根県健康福祉部医療対策課 '04. Dec. 01  
e-mail: iryou@pref.shimane.jp  
▲いつでもどこでも適切な医療が受けられる島根を目指して▼



## へき地医療支援機構 専任医師活動奮闘記

事務局からこんにちは！

しまね地域医療支援センターの木村医師は医師等確保のため全国各地を飛び回っています。そこで今回はこの木村医師の最近の活動状況について紹介します。

毎週金曜日の県立中央病院総合診療科での診療以外は、島根県内で地域医療に携わっておられる医師の方々の相談役として、また、島根の地域医療に関心のある全国の医師の皆様との情報交換等で忙しい(注:本人に忙しいという言葉はない)毎日を送っています。

最近ではフジテレビとくダネ、NHKなどのテレビ出演や新聞への掲載など広報媒体を通じて美顔(?)が広く知れ渡っています。また、各学会発表等において医師を大事にする「しまね地域医療支援センター」の取り組みを広報するスポークスマンとしても活躍中です。



学会でのポスターセッション

「専門医養成プログラム(島根方式)」

木村医師連絡先

TEL:0852-22-6069 FAX:0852-22-6040

Eメール:kimura-kiyoshi@pref.shimane.jp

のプログラムサポーターとしても活躍してもらっていますが、大変相談しやすく信頼のおける人柄の木村医師を今後ともよろしく願います。皆さん気兼ねなく何なりとご相談ください。

【しまね地域医療支援センター 坂本】

## 地域医療最前線その12

### = 松江市立病院の地域医療 =

松江市立病院では、平成9年から本院の現職医師中心に松江市立病院のOB医師が一堂に会し、お互いの親睦を深めるとともに地域医療の構築を目指す事を目標に、毎年「松江市立病院医師OB会」を地域医療室が事務局となり開催してきました。



当院は、平成17年8月に移転新築する事となり、より良い地域医療の連携に向け検討を重ねておりますが、新病院の診療機能や病院の活用方法がある程度明らかになった現在、松江・八束地域の医師・歯科医師と、当院医師を中心とした職員との一層の親睦と、地域医療の推進を図る事を目標として、松江市医師会会員・八束郡医師会会員・島根県歯科医師会松江八束支部会員を対象に、本年8月から11月にかけて新病院の診療機能説明会と交流会を3回実施いたしました。



H17.8 移転の松江市立病院

地域医療連携のベースはやはり医師連携です。医療機関の医師同士の信頼関係の構築が当院地域医療室の最重要課題であり、医師間の情報交換ができる場を数多く設ける事により、「お互いの顔が見える」双方向性の交流を続けていく事が肝要と思われまふ。そして、紹介患者様の急性期治療が終わったら、必ず一度は紹介元へお返す事を徹底し、限りなく100%に近づけられるような信頼の絆を深める為の「かけ橋」になれたらと考えています。

本院の「病病連携・病診連携・病福連携」はまだ十分とは言えず、今後行政も巻き込んで組織的に取り組んでいく必要があります。また、地域医療連携の中心は常に患者様です。「病病・病診・病福そして行政との連携」を進めながら、患者様に保健・医療・福祉の情報提供や啓蒙活動を行なう役割を担う事も、自治体病院の役割と考えます。

連携に不可欠なのが情報の共有化です。そのひとつとして、新病院では電子カルテを導入し、ネットワーク化へのシステムの稼働にむけ検討中です。今後も近郊の医科・歯科の先生方と病院側との医療説明や交流会を開催し、一層の親睦を深めるとともに、忌憚りの無い意見を頂き、地域の中核病院として他の医療機関との連携とコミュニケーションを深め、医療水準の向上を図る役割を果たしていきたいと考えています。

【松江市立病院地域医療室 佐伯】

## 島根県『医療安全相談窓口』

県の医療安全相談窓口は本年4月30日に開設してから約半年になります。この半年間の相談件数は80件余り、うち苦情が8割強を占めています。この苦情の4割強が医療行為に対してであり、更にこのうちの4割の相談者は医療不信を訴えておられます。医療行為の次に多い苦情は医療従事者の接遇です。

当窓口の対応は、相談者の方に相手方と十分に話し合うことを勧め、説明など分からなければそれを伝えて分かるまで話を聴いていただくようにとお話しをさせていただいています。病院内の医療相談窓口を紹介しますが、ほとんどの相談者はその存在さえ知っておられません。紹介すると、安心されるのがこちらにも伝わってきます。今一度、病院の窓口が分かるように病院も工夫が必要かと思ひます。



また、カルテを見て欲しい等希望を言われることもあります。行政としては行われた医療行為の良否を判断することは出来ません。相談者が希望されれば所轄の保健所を通して、苦情があったことを相手方に伝えることは出来ます。と説明しています。医療不信を言われる相談にも本当のところ何が起こったか事実を知りたい、納得いく説明を聞きたいと言う思いが先に在るよう感じられますが、その中で相手方の対応に感情を害されて窓口へ相談、時には苦情を伝えて、の形になっているものもあります。

しかし苦情を訴える相談者の多くの皆さんは、不満、不信を話しつつも、『みんなの病院は大事にしたい』、『病院を傷つけない』、『訴えるつもりはない、納得いく説明が聞きたいだけ』等々の言葉を述べられています。それでも電話をかける必要があったその想いを先ずは受け止めて、その人にとって一番よい対応を心がけていきたいと思ひます。



【島根県医療相談窓口 秦】

## 県のドクターバンクから

### 求人・求職取扱状況

(平成16年11月5日現在)

#### <求人> 29件

- 邑智郡(病院) / 整形外科、精神科
- 浜田市(病院) / 内科
- 雲南市(病院) / 内科
- 出雲市(診療所) / 胃腸科、肛門科
- 邑智郡(病院) / 内科、整形外科、在宅医療
- 隠岐郡(その他) / 不問
- 鹿足郡(病院) / 内科、外科
- 仁多郡(診療所) / 内科
- 出雲市(診療所) / 在宅医療
- 那賀郡(診療所) / 内科
- 鹿足郡(病院) / 放射線科、内科、麻酔科

益田市(病院) / 内科、循環器内科、神経内科、呼吸器内科  
 松江市(病院) / 内科、麻酔科  
 浜田市(病院) / 内科、放射線科  
 津江市(病院) / 精神科  
 仁多郡(病院) / 眼科、内科  
 松江市(その他) / 不問  
 八束郡(病院) / 内科、リハビリテーション  
 松江市(その他) / 不問  
 仁多郡(診療所) / 内科、小児科  
 雲南市(病院) / 麻酔科、精神科  
 出雲市(病院) / 内科  
 松江市(その他) / 内科  
 浜田市(その他) / 内科  
 鹿足郡(病院) / 整形外科、内科、リハビリテーション  
 松江市(病院) / 内科、整形外科  
 邑智郡(病院) / 内科、整形外科、産婦人科、放射線科  
 雲南市(病院) / 内科  
 松江市(その他) / 不問

**<求職> 1件**

希望の担当科 / 精神科  
 申し込み手続き及び詳細につきましては、当紹介所までお問い合わせ下さい。  
 [電話番号] 0852-21-8813(専用電話)  
 [ホームページアドレス]  
<http://www.shimane.med.or.jp/dcbank.htm>  
 [担当: 吉岡・塩田]

~~風に吹かれて~~



新潟県中越地方では10/23の地震以来、長く余震が続き大きな被害がもたらされました。私は最初の揺れは、当日東京で行われたへき地・離島救急医療研究会(今回の会長は島根県立中央病院大田副院長)に参加し、スタッフと会場近くで夕食を摂っていた時に感じました。その時点ではまさかこんな大変なことが起こっているとは思いませんでした。その後も他の仕事で関東地方に2日間滞在しましたので、何度か余震による強い揺れを体験しました。地震の状況の報道を見るたびに、島根県でも医療救護班等の派遣の検討が早急になされるだろうと思いながら帰ってまいりました。



新潟県越路町での打ち合わせ

島根県の対応は早く、新潟県知事から医療救護班等の派遣依頼が出るや、10/29には第一班を派遣すべく、10/28に陸路先遣隊として新潟県越路町に向かいました。この時は医療救護班を越路西小学校に開設した後とんぼ返りしましたが、再度11/4~11/6第四班の医師として医療救護活動をしてまいりました。一回目と二回目の間隔は一週間でしたがその間にも復旧は進んでおり、越路西小学校に避難されていた方が一回目は千人程度おられました、二回目は百人以内になっておられまし

た。寒くなり始めておりましたので、救護所には感冒の方がほとんどでした。明け方急患として呼吸苦しさを訴える高齢の女性の方が来所され、SpO2(経皮的酸素飽和度)が83と低くひやっとしましたが、吸入をしたところ短時間のうちに症状が落ち着きSpO2も93と上昇し、結局日が昇ってからかかりつけの病院を受診していただきました。今回医療救護班として派遣され、島根県に大きな地震などの災害があった場合を想定して緊急連絡網等を含め、マニュアルを再確認する必要がありました。 [医療対策課 木村]

スタッフが在宅療養の意義を熱く語ってくださり、常に前向きな姿勢を感じました。また、ケアマネージャー・医師・看護師・老健施設の責任者との定期的な話し合いも行なわれており、在宅療養患者さん



の情報を共有することができました。島前病院は、地域に密着した施設で、住民の方々の顔もすぐにわかり親しみやすい環境であることから、いろいろな問題もひき受けることになり、オールマイティな関わりを要求され大変な一面もあります。

短期間で全てを理解することはできませんが、隠岐の豊かな自然環境は、なによりも人間の心を豊かにしてくれます。その土地の人柄に触れ、心のビタミンを得ることができたことは今後の看護に生かせることと思います。

[中央病院 集中治療看護科 正木]

**医師確保策を考える**  
**島根大学が地域医療シンポジウムが、津和野町民体育館で開かれ、住民と大学、医療、行政関係者が県内の実情を基に医師確保策などを考えた。**  
 シンポジウムは島根大と津和野町が開いた。島根大医学部附属病院の加藤謙病院長が県内の医療について講演。10万人当たりの医師数は全国平均より多いものの、偏在があり県西部や中山間地で医師が不足している現状を説明。「新しい医師派遣制度や医療機関の連携によって地域で完結する医療が必要だ」と訴えた。全国初となる島根大医学部の地域枠推薦入試や県の医療施策も説明され、永末直文同学部長は「医師の偏在は国立大医学部の卒業生が10年以内に1年間、地域医療に貢献することで解決できる」と提案。住民や行政、医療機関、大学の協働などを盛り込んだ津和野宣言を採択した。  
 [山陰中央新報 04.10.14 より抜粋]

**地域域医療最前線その13**

**=隠岐島前病院看護師派遣を終えて=**

島根県では、地理的条件など離島における看護師不足が深刻化する中で、平成13年から地域医療支援として看護師派遣について検討されてきました。今年6月から第一陣として隠岐島前病院に3ヶ月間行かせていただきました。短期間であったため家族の理解も得られ、無事過ごせた事はなによりだと思っています。

「井の中の蛙 大海を知らず」のごとく、地域に密着した医療体制は私にとって、とても関心が高く興味あるものでした。隠岐島前地区では、唯一入院設備の整った病院であるため、多様な疾患の患者さんの看護が必要とされます。赴任後は、19床の一般病棟勤務となりましたが、療養型病床も同じフロアに隣接しており、入院患者さんのケアなど、時々カバーリングを行いました。外来では訪問看護をされており、4名の外来看護師とホームヘルパーの方達とスケジュールを調整し、定期的に訪問されていました。訪問看護の

**None Blue Rose**  
 今回は、島根県土木部港湾空港課による隠岐空港の紹介です。  
 隠岐空港は隠岐の島町の中心地からおよそ3km離れた岬半島の先端部に位置し、昭和43年県設置・管理の第三種空港(滑走路1,200m)として供用を開始しました。今日、高速交通時代の到来と航空機の大型化が進み、また増大する航空需要に対応するため、小型ジェット機が就航可能な2,000m滑走路を整備平成18年7月の供用開始を目指しているところです。これにより離島における民生安定、利便性の向上及び地域振興が図られるだけでなく、都市と直結されることにより、週末などを利用して気軽に隠岐を訪れることができるようになり、交流の場が広がります。  
 つまり、隠岐諸島への移動時間も短縮され利便性が向上します。しまね地域医療支援センターでは、益々近くなる隠岐での医療確保に努めてまいります。[itaru]

青い薔薇は園芸家の夢。藤紫、明藤色はあっても真の青はないとのこと。BlueRoseは不可能という意味。NoneBlueRoseは私たちの地域医療への熱いメッセージです。

しまね地域医療支援センターの連絡先  
 (島根県庁医療対策課)  
 E-mail: iryous@pref.shimane.jp  
 TEL: 0852-22-5251  
 FAX: 0852-22-6040  
 ホームページ [島根の医療]:  
<http://www.wah.pref.shimane.jp/med/>